

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和 7 年度自己評価書」を元に、令和 8 年 3 月 11 日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 項目別自己評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

| 評 価 項 目 | 評価 | 外部 評価 |
|---|----|----------|
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 | 4 |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 3 | 4 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 | 4 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3 | 4 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 | 4 |

①課題

- ・入学前指導（ステップアップレッスン）や年度当初におけるアドミッション・ポリシーの徹底、理解の指導が年間通じて必要。
- ・Web、SNS 等による教育内容の見える化、情報発信。
- ・教育課程編成委員会で出た意見のカリキュラムやイベントへの反映。

②今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会の意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の教育課程編成委員会で報告した。

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な項目（「～ができる」を満たした場合、アドミッション・ポリシーに合う人材であると言える項目）の一覧化ができたので、実施検討を行う。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年度からの学校教育法改正に向け、学則、カリキュラム表を改訂（特定専門課程＋専門士、単位制移行、「学生」の呼称）。また新制度による専攻科「AI×DX プロデュース専攻科」1 年制、定員 24 名を新たに設置。IT 分野に限定せず、DX 推進が求められるあらゆる業界に対応。 ・前期末、年度末、年 2 回の自己点検評価、年 2 回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。自己評価並びに学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。 ・月刊機関紙「CAN ジャーナル」を Web 掲載することで、学校の様子を各家庭にも伝えている。 ・シラバス、評価基準は公式ウェブサイト公開済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。 ・アドミッション・ポリシーの理解については、授業等でも折を見て説明している。 |

(2) 学校運営

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|---|----|------|
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3 | 4 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 | 4 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 | 4 |
| ・人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 | 4 |
| ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 | 4 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 | 4 |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 | 4 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 | 3 |

| |
|---|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生データの一律管理ができていない。 ・システム化可能な業務による更なる効率化の余地が残されている。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの導入の検討 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者提案による校務支援システムについて、学内で情報共有。導入に向けて運用の可否を検討中。 |

(1)、(2) についての学校関係者評価委員からの意見

- ・専門学校に対してリカレント教育やリスキリングのニーズが社会的に高まっている。
- ・DX 推進がバズワード化している風潮もあるが、本学においては現場重視の姿勢を持ち、教育理念が一本通った少数精鋭の教育を期待する。
- ・学生がアシスタントとして教える経験を通じて、即戦力の指導者へと育てていく仕組みは非常に良い。
- ・建学の精神や校訓（「技術は力なり」等）、ならびにアドミッション・ポリシーが学生にどこまで理解されているか、可視化することが重要である。
- ・企業が行うサーベイのように、理念の理解度を数値化してはどうか。理念を早期に理解した人材は、社会に出た後も自発的に学ぶ姿勢を持つ傾向があるため、新入生に対しても強く周知していただきたい。
- ・本学は県内において独自の立ち位置を築いており、この文化を継続してほしい。
- ・映像メディア業界は、地上波テレビから Netflix などの動画配信サービスへと広がりを見せており、活躍の場は多い。
- ・業界にとっても貴重な人材育成の場であるため、中高生への PR を強化すべきである。
- ・新たに設置される「AI×DX プロデュース専攻科」は現場の視点からも魅力的である。
- ・現代の開発現場では仕組みが完成しつつあり、純粋なコーディングスキルよりも「顧客の目的や作りたいものをヒアリングし、AI を駆使して形にする力」が求められている。
- ・コミュニケーション能力を向上させながら学べる環境が望ましい。

(3) 教育活動

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--|----|------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 | 4 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 | 4 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 | 4 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 | 4 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 | 4 |
| ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 | 4 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 | 4 |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 | 4 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 | 4 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 | 4 |

| | | |
|--|---|---|
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 4 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 | 4 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 | 4 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 | 4 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年ごとに学生のレベルの差異もあり、実践的な職業教育が安定して行えない。 ・入学時に、基礎学力、ヒューマンスキルが低い学生が目立つ。 ・留学生、心身症等の持病をもつ学生、知的障害等の学生に対する個別対応。 ・教員の指導力向上のための研修受講が主に各教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある。 ・常勤・非常勤ともに教員が不足している。特定分野の能力に長けた教員の確保に難航。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を年2回開催している。今年度もこの委員会で企業委員からの有益な意見をカリキュラムに反映しシラバス等を改訂した。 ・入学前課題などを再考し、基礎学力やヒューマンスキル、また学ぶ意欲をある程度上げた状態で、テクニカルスキルの学習を進めていく。またフィードバックできる仕組みを模索する。 ・インターンシップ企業・業界団体との連携を深め、学生のレベルも相談しながら定期的実施していく。 ・企業、企業団体、各種団体と連携をしたロールプレイを多用し、PBLが経験できるようにする。また、具体的な評価やフィードバックをもらえるように調整する。 ・総合的な学力を早めに把握し適切な指導が行えるよう、個々の面談を定期的に行う。 ・教員の指導力向上に関する研修は、いくつかのテーマから現場のニーズが大きいテーマを選び出し、カリキュラム設計から運営までを、福祉医療と共に運営管理する体制を作る。 ・専門的な技術・知識を身に付けるための研修を計画実施する体制を作る。 ・要員を確保する。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のIoT開発企業での研修を前期2年生、後期1年生の学生たちに受けさせることができた。卒業生でもある社員の指導により、業界の仕事のイメージづけ、ものづくりの現場見学など、貴重な学びの場となった。また市内SIer、ネットワーク開発企業での実地研修・実習についても前期1年生に行っていただくことができた。 ・県警・VELTEX静岡と連携した「防犯啓発動画」を完成させ、感謝状をいただいた。 |

- ・県警サイバーセキュリティ課からの依頼である「情報モラルカルタ」のゲームがほぼ完成した。
- ・清水マリナートにてホール見学・照明の実習を実施できた。
- ・例年に引き続き、「学生企画ライブ」をLIVE ROXYにて実施、集客面で課題が残ったが、無事終えることができた。

(3) についての学校関係者評価委員からの意見

- ・本学が「やり直せる学校」であってほしい。精神疾患等、内面の問題を抱える学生がいることも推察するが、今は個を活かす時代である。コミュニケーションが苦手でもプログラミング能力に秀でていれば活躍できる余地があり、企業側の理解促進も必要である。
- ・IT 業界には内向的な気質の人も多いが、業務上必要な情報交換を行うコミュニケーション力は必須である。
- ・弱さを持つ学生が多いからこそ、学生のうちに失敗を経験させ、教員や学校コミュニティ全体で受け止め、相談できるネットワークを構築させることが一層重要になる。
- ・急に診断書が提出されるなど、予測やタイミングが難しいケースは現場でも起こり得る。
- ・実直で責任感が強すぎるあまりタスクオーバーに陥るケースは現場でも見られるが、後に自省して復帰し、楽観的に乗り越えられる人もいる。
- ・現代は指導がハラスメントと受け取られるリスクもあるため、AIを活用して「適度に逃げる手段」やストレス回避のアドバイスを行わせるのも一つの方法ではないか。

(4) 学修成果

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--|----|------|
| ・就職率の向上が図られているか | 3 | 3 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 3 | 3 |
| ・退学率の低減が図られているか | 3 | 3 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 | 4 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 | 3 |

①課題

- ・就職活動に対して、遅滞する学生が、ある一定層存在する。
- ・国家資格の資格取得率が上がらない。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報の入り方に偏りがあり、一部の卒業生の動きしか把握できていない。
- ・精神疾患による休学者・退学者が数名でてきている。

②今後の改善方策

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・個別に面談を行ったり、企業を見学させたりなど、ギャップを少しでも減らしていく。また、卒業生が活躍している企業とのマッチングを増やせるような機会を作り、卒業生と共に就職活動を行わせる。 ・国家資格の資格取得者を増やすため、次のような取り組みを継続していく。 ①入学前よりやる気のある入学者に対して早々に問題集や過去問題による学習を実施する。 ②実技の授業でも国家資格の問題にも活用できるようなカリキュラムを組み、座学が多くならない学習ができる仕組みを作る。 ③CAN スカラシップ生より始まった勉強会を利用し、他学生もこの勉強会を利用できるようにする。 ・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報収集ができるよう、SNSや同窓会のホームページを整備し、活用していく。 ・定期的な担任との面談等、早期に問題をキャッチできる仕組みを作る。また、サポート体制を構築し、学生が安心して学べる環境を整える。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の卒業研究はすべてのテーマにおいて外部連携を行うことができ、その成果を発表会で1年生にも共有することができた。また、GoogleのAIのAPIやAWS、コーディングにおけるAI活用など、先進的な研究内容とすることができた。 ・卒業生を囲む会、オープンキャンパスなどに招く卒業生の近況把握や選抜を学科全体で行っている。 ・企業見学等、卒業後の進路について、1年生の早い段階から考え始める機会が提供できている。 ・舞台機構技能士や電気工事士などの資格に挑戦する学生が増加傾向にある。 ・国家試験「情報処理技術者」に半数近くの学生たちが挑戦。基本情報技術者1名、ITパスポート試験5名が合格。 ・精神的疾患をもつ学生の保護者と連携を密にすることで、家庭からの支援も得られ、指導・対応することができている。 |

(5) 学生支援

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--------------------------|----|------|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 | 4 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | 4 | 4 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 | 4 |
| ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 | 4 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 | 4 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか | 4 | 4 |
| ・保護者と適切に連携しているか | 4 | 4 |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 4 | 4 |

| | | |
|--|---|---|
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 | 3 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 | 3 |

| |
|---|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任レベルで対応できない相談の場合の対応方法を検討・見直す。 ・卒業生への支援体制を整備してはいるが活用される場面が少ない。学校として卒業生との繋がりも大切なため、活用されるように見直していく。 ・既卒・社会人経験者を学生として受け入れている以外、リカレント、リスキリング教育の実施ができていない。 ・中学校・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任レベルで対応できない場合の、専門部署・チームの設置やカウンセラーの検討。 ・卒業生とのつながりが、卒業時の担任の個人 SNS だけとなってしまっている。学校が管理できるような外部システムを取り入れられないか検討する。 ・産学連携先や就職先、教育課程編成委員の意見を中心に、リカレント、リスキリングに対するニーズを聞き出し、カリキュラムに反映。企業や求職者にも提供できるように検討する。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、島田商業高校の文化祭にて音響を担当できた。 ・心身症のある学生については保護者と情報交換・連携を密にできた。 ・静岡県職業教育振興会主催による職業体験フェア（年2回）に参加。ターゲットが小学生になるものの、保護者に対して本学のPRも行えている。 |

(4)、(5)

- ・外部企業等との連携は非常に重要であり、早期に学校外の社会を見せる機会を作るべきである。
- ・コーディングにおいても AI の出力の誤りを見抜く力が必要であり、最終的なインプット・アウトプットは人間が担う。
- ・IT パスポート等の資格は、学んだ証として文系・理系問わず取得させておくべきである。
- ・就職活動が遅滞する学生については、学校の居心地が良すぎるケースや、失敗への恐怖心から動けなくなるケースがある。外部へ出ていく「慣らし運転」の経験が、結果的に心の病の低減にもつながる。
- ・企業側としても、学生のうちから関わりを持ち、学校内の様子や学生の姿を見たいと考えている。業界を知る機会を増やすためにも、積極的な交流をお願いしたい。
- ・アルバイト等の経験は、異世代との会話やマナーを学ぶアクティブな学びの場となる。
- ・AI への的確な指示（プロンプト等）を行うためには、時代が変わっても普遍的なアルゴリズムの理解や、基本情報技術者試験レベルの知識が不可欠である。

・AIを活用した開発は今後必須となってくるため、ChatGPT、Gemini、Claudeといった複数のAIアプリを活用して、それぞれAIがどのような回答をしてくるのかを比較したり、回答に対しての妥当性を調査したりするなど、実践形式で行えるとよい。

(6) 教育環境

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|---|----|------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 | 3 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 | 4 |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 4 | 4 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生人数が例年より増えたためネットワークの整備が必要 ・Windows10のサポート終了によるWindows 11移行 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両館のネットワーク環境が多少整備された。しかし、根本のネットワークが変わっていないため、速度や接続問題、VPNなどまだ改善箇所が残っている。 ・セキュリティ更新が配信されなくなるため、学内のすべてのPCを対象に、Windows 11への移行を実施した。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も台湾への海外研修修学旅行が実施できた。昨年同様、台北城市科技大学で交流。また現地大学生と丸一日グループ活動、フィールドスタディーが実施できた。帰国後、学内で報告会を実施、その成果を電子・福祉両校で共有することができた。 ・毎年度初めに「学校保健計画」「学校安全計画」を作成・整備している。 ・毎年度初めに防災マニュアルの内容確認・更新を行っている。 ・毎年度初めに新入学生のための飲み水（ペットボトル）、非常食を購入、予め決めている場所で保管・管理している。 ・学内のパソコンで利用していたセキュリティ・ソフトウェアについては、Windows Defenderに移行した。 |

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|------------------------------|----|------|
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | 3 | 3 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 | 4 |
| ・学納金は妥当なものとなっているか | 4 | 4 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの学校説明などで使いたい、わかりやすい説明動画コンテンツが不足している。 ・IT系を中心に、オープンキャンパスへの参加者が少ない。 ・留学生の入学者が途絶えている。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科ごとの説明動画を作成し、オンライン説明会などで活用する。 ・YouTubeやInstagramなどに在校生、卒業生が制作したコンテンツを引き続きアップロードしていく。 ・学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座、口コミ等で分かり易くアピールできるようにする。 ・オープンキャンパスの体験では、以下の点を意識して計画、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> a. 職業観を持たせる b. 実際の授業に近い体験を実施する c. 専門学校生活の魅力を伝える d. 大学との差異、本学の良さを伝える e. ほかの参加者との関わりを持たせ、楽しんでもらう ・本学の宣伝やオープンキャンパスの告知方法を検討する。 ・各イベント等の活動をマスコミに投書する。 ・留学生向けの特化した情報発信を強化する。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度後半にキルギス人留学生の入学予定が確定。事前フォローを行っている。 ・大学中退者等、高校生以外の層にもオープンキャンパスで本学の魅力を伝え、入学につなげている。 ・オープンキャンパスや学校生活の様子、学校行事等、Instagramへの投稿を、企画広報室主導により積極的に実施している。 ・SNSを通じて日ごろから授業の魅力、学校行事、学科独自のイベント等を公開できている。 ・両学科とも、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度（専門実践教育訓練指定講座）対象学科となった。社会人の再チャレンジの選択肢の1つとして体制を整えている。 ・ITゲーム&ロボットシステム学科は「留学生キャリアアップ形成促進プログラム」の認定を受けている。 ・春2回・夏3回のスペシャルオープンキャンパスでは、在校生、卒業生の若手エンジニア、長年業界で活躍するスペシャリストを招聘し、段階的な職業イメージの強化と本学出願までの誘導を計画・実施をしている。 |

(6)、(7) に関する学校関係者評価委員からの意見

- ・ITスキルは福祉や保育などあらゆる業界で求められている。
- ・どのような人材を育成するのか、目標を明確にし、カリキュラムをウェブサイト等でわかりやすく公開してほしい。
- ・過去に協会と本学のコラボで業界ニーズ調査を行った。ミスマッチを防ぐためにも有効なので、是非引き続き実施できるよう相互の協力をお願いしたい。
- ・学生募集においては、マーケティング（カスタマージャーニー）の視点を持ち、認知から出願までのプロセスごとにデータを分析し、課題のボトルネックを特定してほしい。
- ・真のDX人材とはツールを使えるだけでなく、観察眼やコミュニケーション力を駆使して「課題や本質を見抜く力（問題定義力）」を持つエンジニアである。

(8) 財務

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|---------------------------|----|------|
| ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 | 4 |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 | 4 |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | 4 |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか | 4 | 4 |

特記事項なし

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--------------------------------|----|------|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | 4 |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 | 4 |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 | 4 |
| ・自己評価結果を公開しているか | 4 | 4 |

①課題

- ・個人情報保護法の理解

②今後の改善方策

- ・職員会議、学科・部署会議で法令遵守の確認を常時行う。

③特記事項

- ・個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付け、各家庭の理解を得ている。
- ・個人情報に係る諸データは、全てパスワードで保護している。

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の自己点検評価の結果に基づいて学校関係者評価委員会を開催。学校関係者評価委員から評価を頂き、まとめ、オフィシャルウェブサイトで公開している。 ・高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。 ・職業実践専門課程認定学科として、毎年7月31日締めで別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。 |
|---|

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--|----|------|
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 | 4 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 | 4 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3 | 3 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外の企業、団体からいただける依頼・案件にばらつきがあり、取り組みが安定しない。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の特長でもある産学官連携での地域貢献活動を通して、本学学生の活動や取り組みを広く知ってもらい、広報活動にも繋げていく。また、コンスタントに連携ができる企業、団体を作っていく必要があると考えている。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。 ・静岡県職業教育振興会主催による「お仕事体験フェア」への出展。 ・地域イベント（「森下ときめき収穫祭」）への出展。 ・昨年同様に掛川で実施されたイベントにボランティアとして参加できた。 ・大道芸ワールドカップのボランティアへの参加。 |

(11) 国際交流

| 評価項目 | 評価 | 外部評価 |
|--------------------------------------|----|------|
| ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 4 | 4 |
| ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 4 | 4 |

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 4 | 4 |
| ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 3 | 3 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生の学習支援、生活指導等の課題整理は引き続き途上である。 ・コロナ時期の影響が大きく、外国人留学生からの出願がほぼない。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生支援の体制を整備し、本学が求める条件をクリア可能な留学生の受け入れを行っていく。 ・学習成果を国外にも告知できるようにホームページを整備する。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT ゲーム&ロボットシステム学科は「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の文部科学大臣認定を受けている。 ・留学生に対する日本語能力試験への対応をサポートしている。 ・留学生専用の入学選考の流れを構築、説明資料等も整備し、オープンキャンパス来校時に適切に対応している。 ・令和8年度、キルギス人留学生の入学が予定されている。 |

(8)～(11)については、学校関係者評価委員からの意見は特になかった。

以 上